

Leicaのフルオートソリューション製品

使って、のぞいて、実現できる付加価値を現在、未来のために投資しませんか？



接眼レンズ付デジタルマイクログラフ M205シリーズ

- FusionOptics (実体顕微鏡：高い解像度と深い焦点深度) テクノロジーで3D像の目視観察と、垂直光路でのライブ観察・撮影、イメージングの二刀流が可能
- 目視最大320倍、モニター上で35倍から最大2154倍の拡大観察*
- 目で覗きながら、コンタミチェックのスクリーニングも可能。視認性で作業効率アップする「蛍光観察」にも対応

※ 対物レンズ2x、同軸照明、27インチモニター使用

落射リング 同軸落射 蛍光 透過 透過偏光



大型ワーク対応正立顕微鏡 DM8000/12000 M

- 12" ウェハ対応の大型XYステージ付きで大きなワークの全体像 (パノラマ画像) と小さい対象物両方快速、鮮明に観察
- 広視野観察 (0.7x対物レンズ) から、高解像力観察 (150xUV対物レンズと斜照明組み合わせ) まで
- 不良・欠陥、異物箇所を特定後、拡大観察の際にフォーカスと位置ズレほぼなし

明視野 暗視野 蛍光 微分干渉
UV 斜め照明



正立顕微鏡 DM6 M

- 100x100mm程度のワーク表面の、20μm以下のパーティクルを自動カウント・分類可能
- ISO16232、VDA19.1、USP788等準拠した検査も対応
- 多くの観察方法に対応、蛍光観察による残渣確認なども可能

明視野 暗視野 蛍光 微分干渉
位相差 偏光



倒立顕微鏡 DMi8 A

- 試料の高さ/重量に制限がなく、大きな試料の観察も可能。研磨試料、フィルムなどに最適
- ユニークな斜め3D照明で、コスト・工数かけずに平坦なワークの表面構造を3次元的に色を変えずに観察
- 3ステップフォーカス機能で微動調整をさらに微細にピント調整可能

明視野 暗視野 蛍光 微分干渉
位相差 偏光 斜め照明



デジタルマイクログラフ DVM6 MX

*接眼レンズなし

- 大きい、高さのあるワークに対応 (最大高さ340mm)
- 簡易透過偏光で、樹脂、フィルム、結晶等の観察にも最適
- 同軸照明内蔵。リング照明は偏光板を取り付けて、回転させるだけでテカリ、反射を抑制

落射リング 同軸落射
透過 透過偏光

Leica マイクロシステムズ株式会社

本社 東京都新宿区高田馬場1-29-9
Tel. 03-6758-5656

大阪セールスオフィス 大阪府大阪市北区豊崎5-4-9 商業第2ビル 10F
Tel. 06-6374-9771

名古屋セールスオフィス 愛知県名古屋市中区栄2-3-31 CK22キリン広小路ビル 5F
Tel. 052-222-3939

<https://www.leica-microsystems.com/jp/> Email: lmc@leica-microsystems.co.jp

CT コスモトレーディング株式会社

本社 大阪市淀川区西中島5-5-15 新大阪セントラルタワー
TEL: 06-6309-3578 / FAX: 06-6309-3638

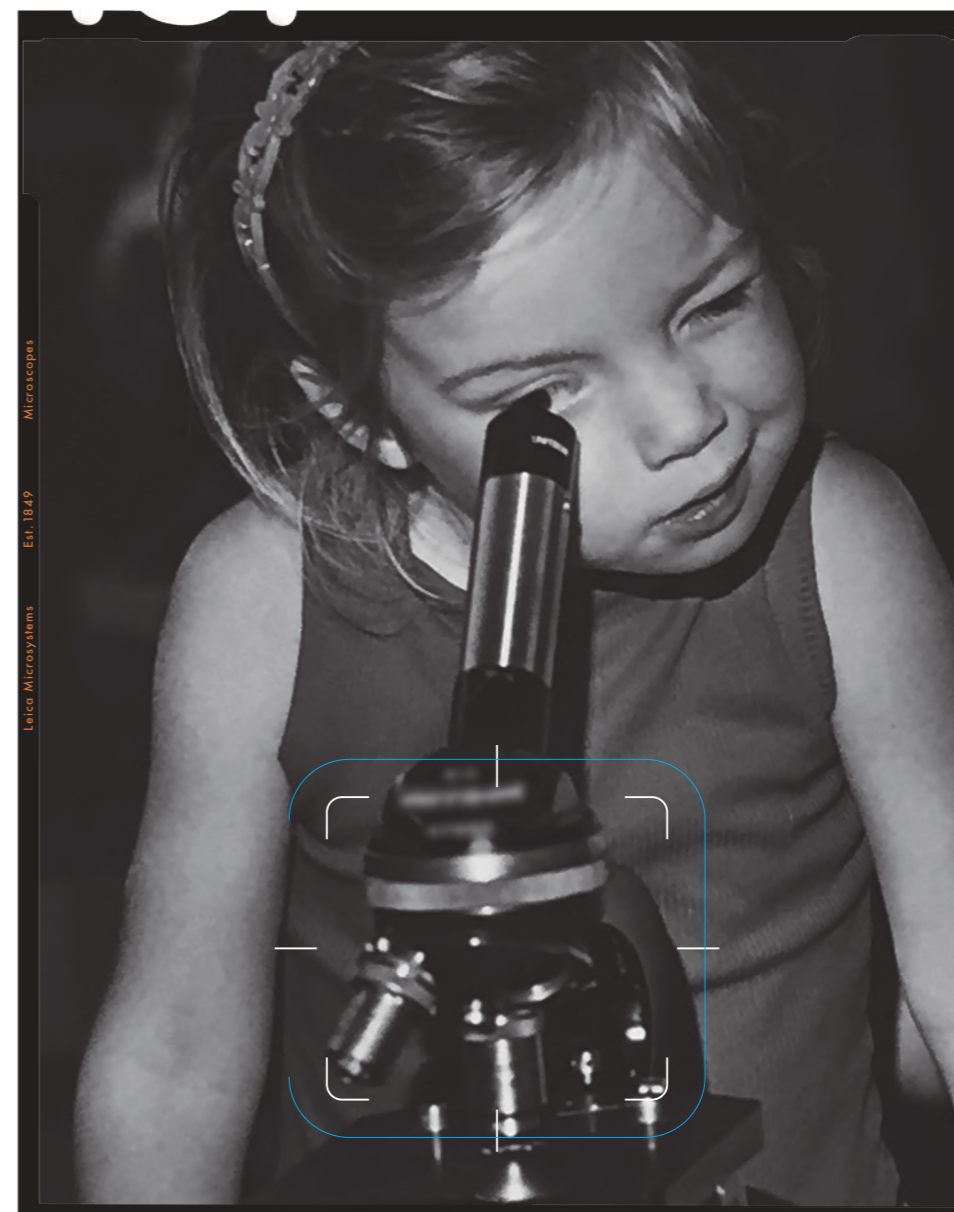
名古屋支店 名古屋市西区名駅2-23-14 VIA141ビル
TEL: 052-565-4410 / FAX: 052-571-7053

Mail: info@cosmotrading.co.jp
<https://www.cosmotrading.co.jp>

※この製品のデザインおよび仕様は改良などのために予告なく変更する場合があります。

From Eye to Insight

Leica
MICROSYSTEMS



真実は覗かないと
わからない

偉人に愛され、さまざまな分野で貢献するLeica

Leicaは19世紀に家族経営企業として設立され、現在、グローバル企業として活動しています。創業者のエルンスト・ライツ1世の言葉「ユーザーと共に、ユーザーのために」は、現在のLeicaの礎になっています。

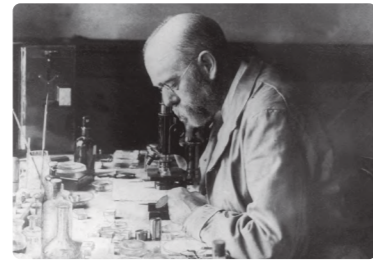


1955年、47万5千台目を
哲学者アルベルト・シュヴァイツァーに寄贈

偉人に愛されたLeica



野口英世が愛用した顕微鏡と写真機、
黄熱病の病原体であるウイルスは観察できず



10万台目の顕微鏡がノーベル賞受賞者である
ロベルト・コッホに贈呈される

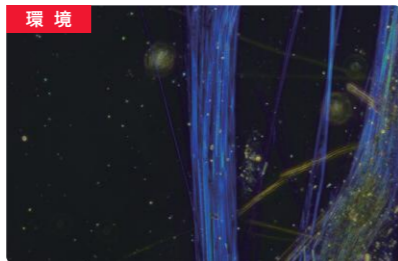


皇居内生物学御研究室でLeicaORTHOLUXで
変形菌類とヒドロ虫類を研究

さまざまな分野で貢献



美術品修復に利用される可搬式（フロアスタンド）
実体顕微鏡



アスベスト定性検査で用いられる偏光顕微鏡



ライフサイエンス宇宙実験のライブイメージング
システムに、倒立顕微鏡が搭載



発射弾丸などに残される発射痕跡の
比較識別に用いる比較顕微鏡

ドイツ本社 (Wetzlar) オプティック
センターでのマスターによるアッセン
ブリ、Leica基準による品質管理

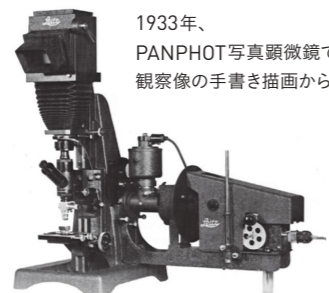


技術革新と高い品質管理

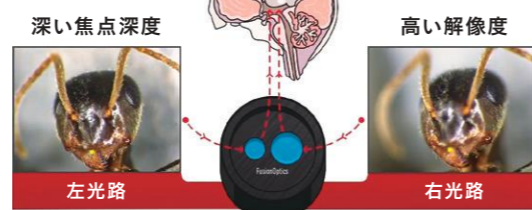
Leicaの光学技術とレンズクオリティは進化し続け、
かつ厳しい品質管理によって維持されています。



1913年、初の双眼鏡筒顕微鏡で
病理学者の職業病（目の視力の差）を開放



1933年、
PANPHOT写真顕微鏡で
観察像の手書き描画から解放



解像度の高さと焦点深度の深さを一台の顕微鏡で実現する、
実体顕微鏡 FusionOptics技術

人間にとって使いやすく、最大限の効果を 発揮するストレスフリーなデザイン



※赤は電動制御対象

カメラ&観察条件

取得画像から過去と同条件を再現、カメラのみ最新モデルに更新可能

倍率

電動レボルバで迅速、安心した倍率変更が可能

フォーカス駆動

同焦点/同中心
倍率変更時もフォーカス、位置調整は微調整のみ

観察方法

ワンボタン・クリックで観察方法を最適条件で切替

照明条件

倍率・観察方法変更時も、明るさ・絞りなど自動調整

XY位置登録 + Navigatorモジュール

電動XYステージを使用、広視野中の微細異物も地図アプリの
ようにナビゲーション、自動画像連結もストレスゼロ

タッチパネル



プログラマブルボタン



SmartMove

タッチパネル、ボタン、
SmartMoveコントローラー、
ソフトウェアからワンボタン・
クリックで顕微鏡操作が可能



Leicaの製品は、フルオートで高い光学性能を実現しています。

FULL AUTOMATION

フルオート技術は、

高い再現性

外観検査の
工数削減

教育訓練
時間の削減

を可能にする技術です。